

文意を正しくとらえる
(文法)

名 前

解 答

★文法とは、言葉の使い方や続け方などのきまりのことをいいます。ここでは、「文章・段落・文・文節・単語」といった言葉の単位や、「文の成分」や「品詞」などの文節、単語の働きや用法について理解することをねらいとしています。

やってみよう

〔解答と解説〕

- 1 母は^ネゆっくり^ネ話す^ネ。
2 白い／バラが／たくさん／咲いた。
3 昨日の／夜から／朝まで／たくさん／雨が／降った。
4 人間は／自然環境を／破壊しないような／生活の／工夫を／するべきです。
5 友達の／意見を／しっかりと／聞き、／話し合いを／前向きに／進めるような／発言を／する。

◆文節とは、意味が分かる程度に小さく区切った言葉の単位をいいます。「ネ」「サ」「ヨ」「ナ」などを入れて区切ってみてください。

① ア … 「何が」にあたる文節なので主語です。

② イ … 「どうなった」かを示した文節なので述語です。



③ エ … 「白いバラが」という前の文と「私は」という後の文をつなぐ働きをしている文節なので、接続語です。

④ オ … 感動を表す文節で、他の文節をかかわりをもっていないので、独立語です。

⑤ ウ … 飾ったのは何かを示して、後に来る文節の内容をくわしく説明している文節なので、修飾語です。

◆文節を文の中の働きごとに分類したものを「文の成分」といいます。「文の成分」には、「主語」「述語」「接続語」「独立語」「修飾語」の五種類があります。

1 ア … 「何が↓どんなだ」を表しているので、この文節どうしの関係は、主語・述語の関係です。

2 エ … 「ながめた」のは何かを詳しく説明しているので、この文節どうしの関係は、修飾・被修飾の関係です。

3 イ … 「岩石や」「地表の」は対等にならないで、ひとまとまりで修飾語の働きをしています。このような分節どうしの関係は、並列の関係です。

4 ウ … 下の分節「いる」が上の分節「立って」の意味を補っているので、この分節どうしの関係は補助の関係です。

二

三